

事務事業評価シート

評価実施年度：平成28年度

上位の施策名称	施策Ⅰ-1-4 企業立地の推進
---------	--------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	企業立地課長 横原 由文	電話番号	0852-22-5764
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	企業誘致のためのPR活動事業
目的	(1) 対象 県内外の企業 (2) 意図 県外企業の誘致や県内事業所の再投資を促進するため、島根県の立地環境及び立地優遇制度等に対する認知度を高める。
事業概要	島根県の立地環境及び立地優遇制度等に対する認知度を高め、県内への企業立地を促進するため効果的なPR活動を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> 企業立地セミナー：県外において企業向け説明会の開催 パンフレットの作成配布：優遇制度、主要工業団地等の情報を掲載 しまねスタイルプロモーション：ソフト系IT企業向けのPRホームページの開設運営

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	ホームページのアクセス数	目標値	38,000.0	38,500.0	39,000.0	39,500.0	回
	取組目標値							
	式・定義	県ホームページのトップページアクセス数及び「しまねスタイル」ホームページページビュー数	実績値	74,115.0				
			達成率	-	-	-	-	%
2	指標名	企業立地セミナーの出席者数	目標値	200.0	200.0	200.0	200.0	人
	取組目標値							
	式・定義	企業立地セミナーの出席者数（主催者等出席者数を除く）	実績値	303.0				
			達成率	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	13,163	13,377
うち一般財源(千円)	13,163	13,377

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

・平成27年度のホームページアクセス数は74,115件（内訳：企業立地課HP=44,896件、しまねスタイル=29,219件）で前年度に比して21,685件増加した。
 ・企業立地セミナーは、平成27年度に前年度比1箇所増の2箇所で開催し、参加人数が増加した。H26「133名」→H27「303名」

6. 成果があったこと（改善されたこと）

・「しまね産業セミナー」については、定期航空路線が再開した名古屋、自動車高速道 尾道松江線が開通した広島で開催することで、参加人数が増加した。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

・PR活動により島根県の立地環境や優遇制度が広く認識され、近年、立地認定件数が伸びている。
 ・ただし、立地先が県東部に偏っており、県西部や離島への誘致が進まない状況にある。
 ・また、新規立地が続いているソフト系IT企業が必要とするエンジニア等の人材確保が難しくなつつある。
 ・併せて、島根の環境をIT人材にPRするサイト「しまねスタイル」へのアクセス数が減少している。

②困っている状況が発生している「原因」

・県西部の中山間地域や離島の地域資源（自然環境、住宅環境、育児環境、コミュニティー、農林水産物）などの魅力が企業へ十分に伝わっていない。
 ・また、地方で働くことに興味を持つITエンジニアを対象とした幅の広い情報発信が出来ていない。
 ・これらの情報をタイムリーに更新し、効果的に提供する手段が整っていない。

③原因を解消するための「課題」

・企業へ助成制度の加算、人材、用地、賃工場、空家、廃校等の中山間地域等に関する情報を的確な方法で届けることが必要。
 ・転職を希望するIT技術者へ、「島根らしさ」や島根で働くメリットを的確な方法で届けることが必要。
 ・「しまねスタイル」の内容見直しも含め、有効な情報発信方法を検討する必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・人材確保支援やソフト産業支援の拡充などをテーマとした立地セミナーを開催し、島根の立地環境を企業へPRする。
 ・新たに、中山間地域や離島の島根らしい地域資源と立地環境を、企業やU・Iターンを思考するIT技術者に届ける手法を検討する。
 ・誘致企業の人材確保に関して関係機関との連携を強化して取り組む。

9. 追加評価（任意記載）

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。
 ・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。